

5, ヒノキ科の巨木 Cupressaceae

■ヒノキ科の巨木は以下に分類する。

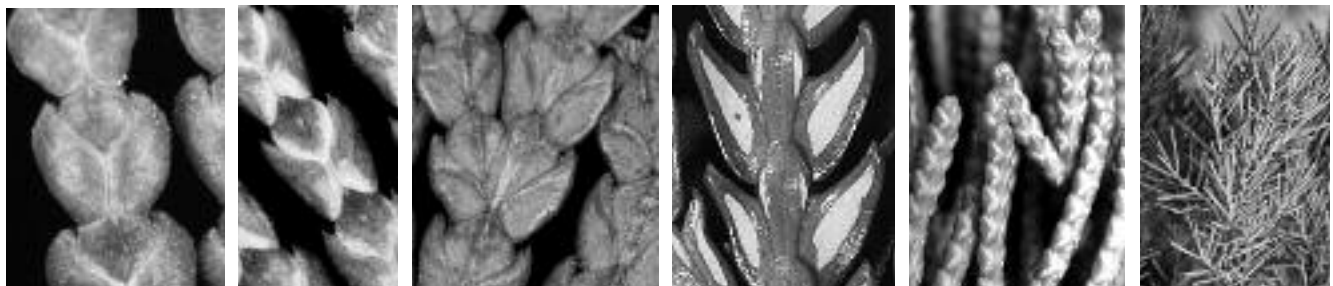
- A ヒノキの巨木
- B サワラの巨木(ヒヨクヒバを含む)
- C クロベ(ネズコ)の巨木
- D アスナロ(ヒノキアスナロを含む)の巨木
- E イブキ(カイヅカイブキを含む)の巨木
- F ネズの巨木

5-A ヒノキ(檜)の巨木 ヒノキ科ヒノキ属 Chamaecyparis obtusa

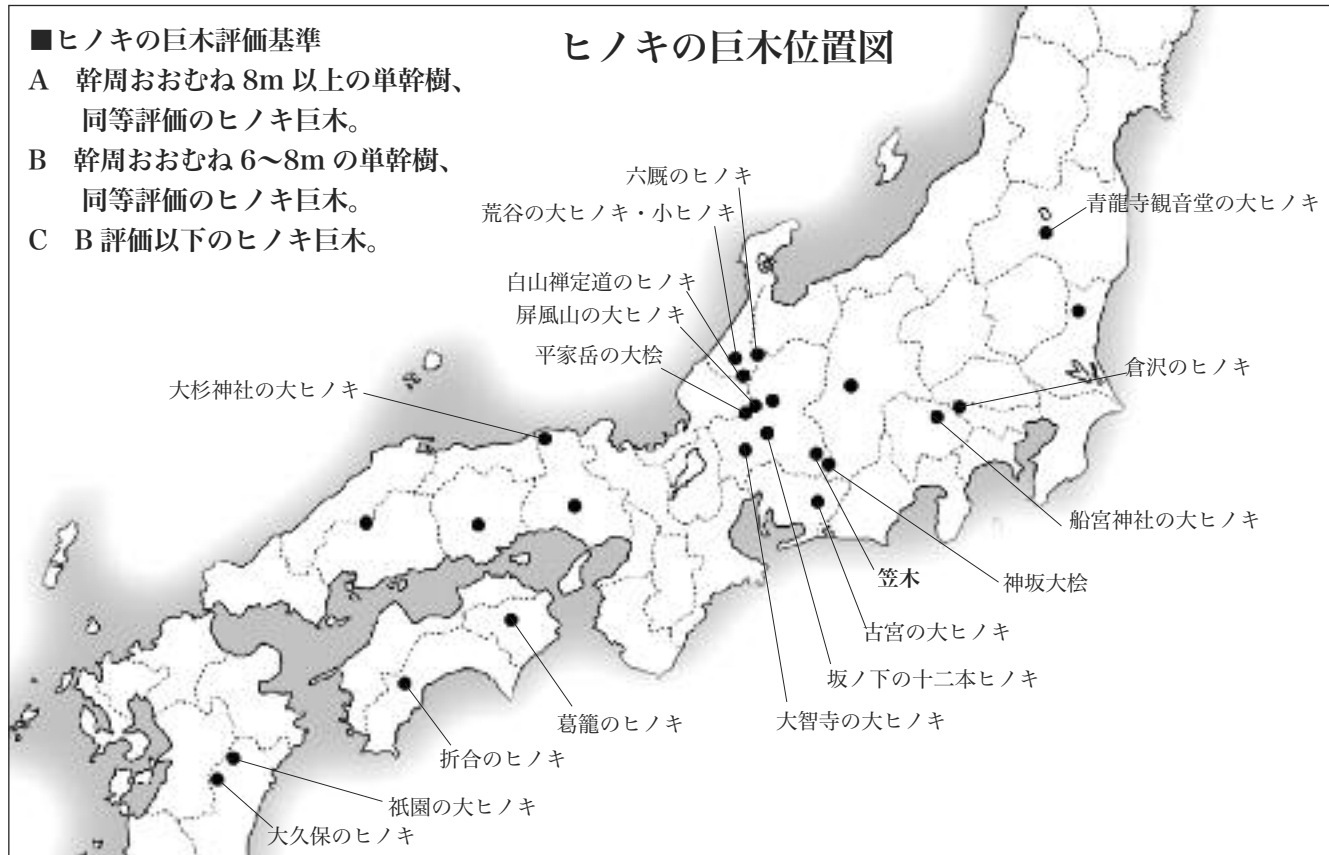
ヒノキは福島県以西、屋久島までに生育する常緑高木で、日本人になじみ深い樹木だ。しかし、ヒノキ科の樹木の識別方法があまり知られていないので混乱が起きている。

日本一のサワラである福島県の「沢尻のヒノキ」は、登録時に誤認されて、名前がそのまま残った例である。ヒノキとクロベもよく誤認される。識別点は葉裏の白い気孔である。ヒノキはY字形、サワラはX字形をしている。ちなみに、アスナロの葉の鱗片はヒノキの3倍程もあり、普通に見分けが付き、葉裏はW字に近い気孔がある。より北方にある変種のヒノキアスナロは基本的にアスナロであるが、アスナロの果実は角があるが、ヒノキアスナロは球形で区別する。しかし、巨木分類では両者は区別はしない事とする。

■ヒノキ科の葉比較



ヒノキの葉裏 サワラの葉裏 クロベ(ネズコ)の葉裏 アスナロの葉裏 イブキの葉 ネズの葉



■ヒノキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
枯死	折合のヒノキ 写真 H-001	8.5m	28m	高知県高岡郡四万十町折合	
A	笠木 写真 H-002	M9.0m(1.3m 2015)	26m	岐阜県恵那市上矢作町上村恵那国有林	なし
A	大久保のヒノキ 写真 H-003	M7.3m(1.3m 2009)	32m	宮崎県東臼杵郡椎葉村下福良字大久保	国
A	屏風山の大ヒノキ 写真 H-004	株周 M12.9m(1.3 2008)	16m	福井県大野市秋生 屏風山尾根	なし
B	白山禪定道のヒノキ 写真 H-005	M7.4m(1.3m 2009)	20m	石川県白山市一ノ瀬 六万山尾根	なし
B	青龍寺観音堂の大ヒノキ 写真 H-006	M7.36m(1.3m 2012)	25m	福島県岩瀬郡天栄村牧ノ内字竜生	村
B	神坂大檜 写真 H-007	M7.22m(1.3m 2008)	27m	岐阜県中津川市神坂袖林	なし
B	祇園大ヒノキ 写真 H-008	M7.1m(1.3m 2009)	27m	宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町鞍岡	なし
B	神坂大檜入口のヒノキ 写真 H-009	M7.05m(1.3m 2008)	15m	岐阜県中津川市神坂袖林	なし
B	平家岳の大檜 写真 H-010	M6.94m(1.3m 2014)	20m	福井県大野市面谷 平家岳尾根	なし
B	荒谷の小ヒノキ 写真 H-011	M7.0m(1.3m 2009)	15m	石川県白山市荒谷	なし
B	白山神社の六本ヒノキ 写真 H-012	M6.35m(1.3m 2008)	25m	岐阜県郡上市大和町神路	県
B	船宮神社の大ヒノキ 写真 H-013	M6.55m(1.3m 2008)	30m	山梨県甲州市塩山平沢	県
B	倉沢のヒノキ 写真 H-014	M6.2m(1.3m 2007)	33m	東京都西多摩郡奥多摩町日原	都
B	坂下の十二本ヒノキ 写真 H-015	M6.0m(上部 0.3m 2007)	23m	岐阜県下呂市小坂町坂下	県
B	檜倉のヒノキ 写真 H-016	株周 M9.0m(0.2m 2009)	15m	石川県白山市一里野	なし
B	屏風山の根上りヒノキ 写真 H-017	株周 M11.0m(1.3m 2008)	16m	福井県大野市秋生 屏風山尾根	なし
B	荒谷の大ヒノキ 写真 H-018	株周 M8.0m(上部 0.3 2009)	15m	石川県白山市荒谷	なし
B	六厩のヒノキ 写真 H-019	株周 M7.67m(1.3m 2009)	24m	岐阜県高山市荘川町六厩	なし
B	大智寺の大ヒノキ 写真 H-020	M6.86m(1.3m 2015)	20m	岐阜県岐阜市北野 668-1	県
B	小野神社のヒノキ 写真 H-021	6.6m	25m	長野県塩尻市北小野宮前	県
B	大杉神社の大ヒノキ 写真 H-022	6.2m	40m	兵庫県美方郡新温泉町久斗山字宮前	県
C	葛籠のヒノキ 写真 H-023	5.0m	24m	徳島県美馬郡つるぎ町一字葛籠	町
C	古宮の大ヒノキ 写真 H-024	M5.85m(1.3m 2008)	25m	愛知県新城市作手清岳字宮前	村



写真 H-001

旧日本一のヒノキ

枯死・折合おりあいのヒノキ

写真家・八木下弘によれば、著書の中で1978年の撮影時、樹勢の衰えが著しいとある。ヒノキの股に登ってポーズをとる営林所の署員の写真が掲載され(下写真)、いかにヒノキが巨大であったかが判る。枯死したのは2002年頃という。この頃の記録によれば、地上3mで5分岐する樹形で、主幹に大きな空洞があり、斧跡も残されているという。これらと写真から、このヒノキは古株更新であった事が伺える。ヒノキの古株更新は、「屏風山の大ヒノキ」「檜倉のヒノキ」等があるが、スギ程の個体数がない珍しい巨木であった。(左写真・Web画像)



◀日本の巨木・八木下弘著より。

写真 H-002

日本一のヒノキ

かさぎ 笠木

巨木 DB 幹周 7.54m。これは、山側 1.3m 地点の測定値。斜面に立つ巨木は、上部がすぼまる樹形の場合、実感される大きさより小さく、広がる樹形の場合は大きな数字が出る欠陥がある。この場合、谷側は全く手が届かず、道具がなければ測定不能という問題もある。

笠木の場合は前者で、見た目には 8m を越える巨木である事は明白に判ったが、M 式による実測結果はちょうど 9m(下写真)と言う結果に驚いた。

真直ぐに天を突く単幹樹で、大きなコブがあるのは、かつてこの下部に側幹があった痕跡である。それにしても見事なヒノキで、樹齢はいったいどれくらいか、想像もできない。かつて、神坂ヒノキを取材した折、近くにあったヒノキの切株では、年輪幅が 1.7^{mm} 程であった事から、樹齢 800 年程か。

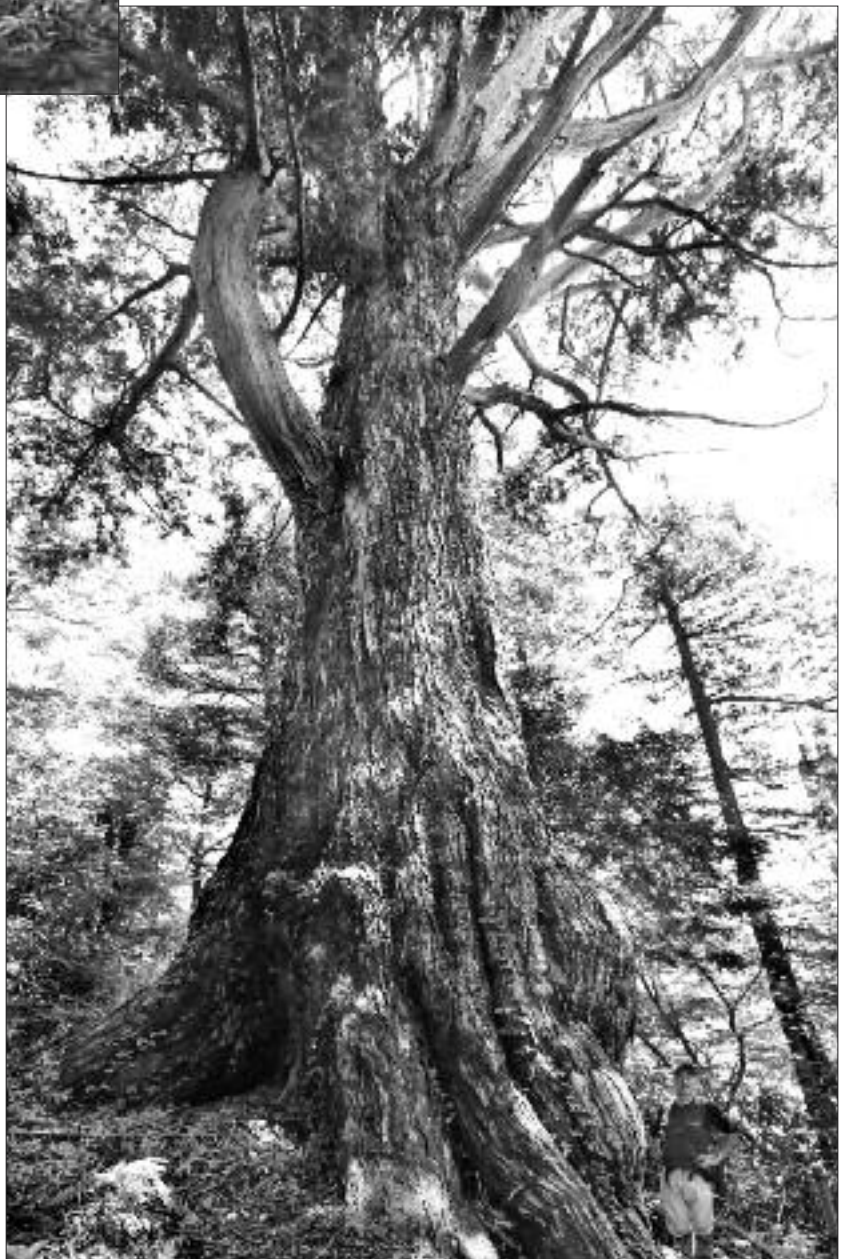


写真 H-003

旧日本一のヒノキ

おおくぼ
大久保のヒノキ

大久保のヒノキは、太い主幹と根元近くから直立又は斜上する細い幹3本がある。このような樹形の場合M式では細い幹3本を除いた1.3m地点の主幹のみを測定する。おそらく、巨木DB8.3mは、細い幹を合計したものであろう。6mで10本程に分岐する幹と枝が連理する等、幹の上部は無数の細い枝が水平に出て、その幾何学的模様が不思議な世界を醸し出している。根元から見ると、雄大な樹形で、実に堂々としている。

2002年頃に日本一のヒノキであった折合のヒノキが枯死した後、大久保のヒノキが日本一のヒノキであった。その後、2015年に笠木が日本一のヒノキとなって、その座を降りた。



写真 H-004 日本一奇怪なヒノキ

びょうぶやま
屏風山の大ヒノキ

地元の営林署の署員が発見した日本一奇怪なヒノキ。根元の空洞で一夜を明かしたことがあるという。天然ヒノキの古株更新と見られるが、これ程巨大なものは前例がない。内部の古株は一部を残してほぼ朽ち、巨大な空洞となっている。まるで櫓でも組まれたような樹形。5本の幹が柱になっているが、これは着生したヒノキの根が巨大化したもの。左写真の右幹は朽ちかけていて、これは古株の一部。道はないので要ガイド。



▲写真 H-005
はくせんぜんじょうどう
白山禅定道のヒノキ

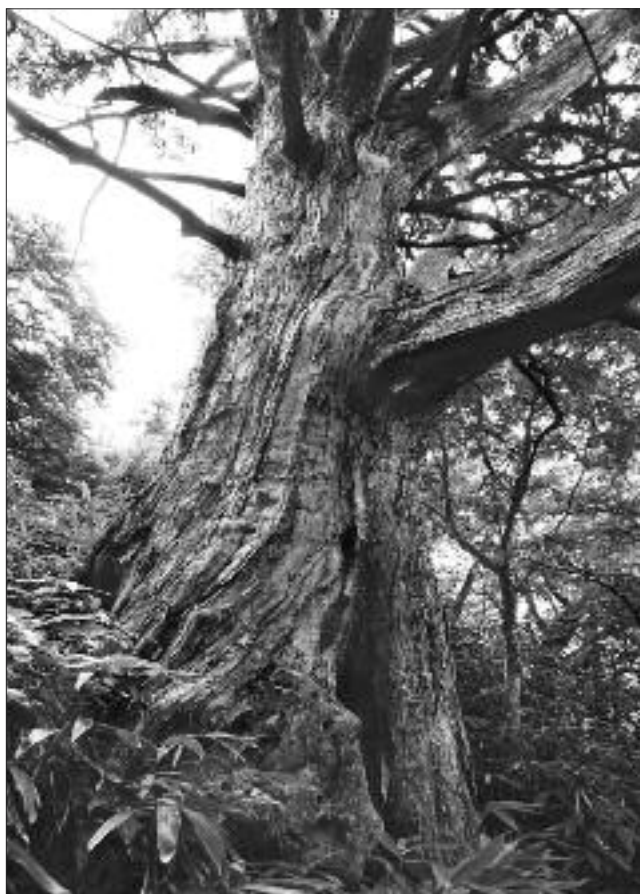
天然ヒノキの怪樹だ。根元に空洞があることから、古株更新によるもの。実生伏条幹が多数出て、複雑な樹形になっている。立山の美女平の天然杉と同様な天然更新がここ白山のヒノキでも起きていた事を証明する貴重な一本である。

泰澄大師が白山を開山する際に登ったとされる禅定道途中、六万山から続く尾根に立つ。近くには、権現(泰澄大師)の愛木と言われる、クロベの巨木もある。



▲写真 H-006
せいりゅうじ
青龍寺観音堂の大ヒノキ

主幹は5mで大小5本に分岐する。主幹は空洞化し、上部はかろうじて枝葉を付け、衰弱が激しい様子である。



◀写真 H-007
みさかおおひのき
神坂大檜

標高1,260mの山中に立つ天然ヒノキである。林道から遊歩道に入る入口に「入口のヒノキ」(下写真)がある。同じ程のヒノキであるが、こちらは主幹が白骨化している。根元には大きな空洞があり、先端も白骨化した枝が多数あり、こちらも晩年にさしかかっている様子。

▼写真 H-009
みさかおおひのき
神坂大檜入り口のヒノキ





▲写真 H-008 主幹は2.5mで9分岐する。前面中央に古株の痕跡があり、古株更新による樹形である。掌を上向きにしているような樹形をしている。このような形態は、天然杉でも度々見られるもの。

▼写真 H-011
荒谷の小ヒノキ

尾根に3本あり、中央が「荒谷の大ヒノキ」で、これはその上にある。急尾根に立つため、根張りが発達している。一番下は小さい。



▲写真 H-010 平家岳の大桧

面谷(おもてだに)の大桧とも呼ばれるが、実際は平家岳登山道、標高1,074m尾根に立つ。2.5mで大小4分岐する樹形で、根元には古株の痕跡があり、古株更新である。背後には古株から伸びる4本の根が、幹のように癒着しながら成長し、分岐幹の谷側2本は8mで連理する。このように、天然杉と同様、古株更新による天然ヒノキも又、複雑な成長過程を経て巨大化する事が判明する巨木として貴重な存在である。

▼写真 H-012
白山神社の六本ヒノキ

地上1~2mで6分岐し、中心の主幹はさらに3~6mで4分岐する。全体で9本の幹が立上がる見事な樹形をしている。



▼写真 H-013
船宮神社の大ヒノキ

ひなびた社殿の後方に立ち、2mで3分岐する樹形。





◀写真 H-014

くらさわ
倉沢のヒノキ

日原街道から山道を20分程尾根づたいに登った所に立つ天然ヒノキ。地上5m付近から多数に分岐し、枝葉を広げる樹形。自然破損による上部分岐幹樹形。

▲写真 H-015

さこれ
坂下の十二本ヒノキ

この地は下にある神明神社のお旅所といわれる。周辺でよく分岐した実生苗が見られるという。実生伏条による分岐幹ヒノキである。



◀写真 H-016

ひのきぐら
檜倉のヒノキ

白山信仰の道として知られる白山禅定道沿いにある。一里野スキー場の上部にある尾根、巨岩の上に着生した天然ヒノキの怪樹である。まるで怪物が岩に取りついたような、異様に根元で膨らんだ樹形。根元を観察すると古株の痕跡が見える。根元は根上り状になっていて、実生伏条幹が何本も立上がったようだ。近くに二本が振じれるように立ち上がる「夫婦ヒノキ」もある。(右写真)



▼写真 H-019

むまい
六厩のヒノキ

古株更新による樹形で、主幹は根上り状になっている。空洞部に古株があった。



◀写真 H-017

びょうぶやま
屏風山の根上りヒノキ

「屏風山の大ヒノキ」より50m登った尾根にあり、古株更新の樹形である。古株は完全に朽ち、根上り状になった。





◀写真 H-018
あらたに
荒谷の大ヒノキ

「荒谷の小ヒノキ」の下部尾根の急斜面にあり、根元二分岐樹形で、折合の大ヒノキが枯れた時、このヒノキが日本一になったと言われた。調査の結果、分岐幹の合計周と判明した。分岐幹の下には巨大な気根が下がり、「荒谷の乳房ヒノキ」とも呼ばれている。急斜面に立ち、道具がなければ測定は不可能。尾根への道はないので、要ガイド。



写真 H-020▶
だいちじ
大智寺の大ヒノキ

本堂前に立つ単幹樹で、落雷によって樹皮が剥がれ、枯れた部分がある。

▼写真 H-021
おの
小野神社のヒノキ

境内の北端に立つ単幹樹。(写真・原一興)



▼写真 H-022
おおすぎ
大杉神社の大ヒノキ

本殿の後方に立つが、背後の主幹は破損している。(写真・Web 画像)



▼写真 H-023
つづろ
葛籠のヒノキ

ひなびた一字集落からさらに奥に入った高台に立つ単幹樹である。



▼写真 H-024
ふるみや
古宮の大ヒノキ

古宮城址に立ち、現在は白鳥神社が祀られている。3mで2分岐していたが、手前の幹が枯れた。

